



インカ帝国展—マチュピチュ「発見」100年
©TBS/Toppan 2012



熊川哲也K/バレエカンパニー
海賊
©Shunki Ogawa



劇場版 SPEC～天～
©2012「SPEC～天～」製作委員会

映像・文化事業の売上高は、601億6千7百万円で前年同期に比べ1.8%の減収となりましたが、営業利益は24億5千9百万円で、前年同期に比べ109.1%の増益となりました。

イベントの分野では、新たにオープンした東急シアターオーブのこけら落とし公演「ウエスト・サイド・ストーリー」や、エルヴィス・プレスリーらの往年のヒットメロディーがステージを彩る「ミリオンダラー・カルテット」といったブロードウェイ招聘公演が盛況でした。

赤坂ACTシアターでは、佐藤 健・石原さとみの共演で注目を集めた「ロミオ&ジュリエット」、高橋克典・坂口憲二らの殺陣が話題を呼んだ「舞台 十三人の刺客」、ブロードウェイ進出を果たした米倉涼子の凱旋公演「CHICAGO (シカゴ)」など、バラエティーに富んだ作品を上演しました。また、根強い人気に支えられている熊川哲也K/バレエカンパニーは、「海賊」「Triple Bill (トリプル・ビル)」の両公演でファンを魅了しました。

展覧会関係では、考古学・人類学・歴史学の3つの視点からインカ帝国の全貌に迫った「インカ帝国展—マチュピチュ『発見』100年」が国立科学博物館で開催され、目標を大幅に上回る45万人超の来場者数を記録しました。また、国立西洋美術館で開催された「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の400年」も、40万人を超える動員を達成しています。このほか、科学の面白さ

や奥深さを体感できる特別展「元素のふしぎ」も好評でした。

映像・ソフトビジネスの分野では、4月公開の映画「劇場版 SPEC～天～」が、ソーシャルゲームや出版などのマルチ展開でブームアップを図り、23億円を突破する興行収入を記録しました。このほか、劇場映画では、「ももへの手紙」「ガール」「天地明察」などの作品を公開しました。昨年12月公開のアニメ映画「けいおん！」は、7月にブルーレイディスク・DVD化されて、良好な売れ行きを示しています。DVDでは、「SPEC (スペック)」シリーズがファンの支持を得ているほか、「最高の人生の終わり方～エンディングプランナー～」やブルーレイディスク版の「南極大陸」といった作品も好評です。アニメでは、「僕は友達が少ない」「アマガミSS+ plus」などの人気が高く、夏に開催した「TBSアニメフェスタ2012」はチケットが完売になるなど、盛況のうちに幕を閉じています。

番組販売ビジネスでは、番組のコンセプトを販売する海外向けのフォーマット・セールスが好調で、「SASUKE (サスケ)」は150を超える国と地域に販売されています。さらに、アメリカ・マレーシア・シンガポールでは、完全現地版の番組が制作されて好評を博しているほか、ヨーロッパ各国でも完全現地版の制作が予定されています。また、台湾に販売した「大奥」は、日本の連続ドラマとして初めて、日本での放送翌日に放送されることにな



ガール
©2012 "GIRL" Movie Project

りました。

ペイテレビビジネスでは、動画配信サービスの「TBS オンデマンド」が、NTTドコモやKDDIなどの通信キャリアが運営する定額見放題サービスにいち早く対応し、ドラマ「SPEC(スペック)」「ATARU(アタル)」などの人気コンテンツで売上を大幅に伸ばしました。CS放送では、今年7月に10周年を迎えた「TBSチャンネル」が、東経110度のCS放送をHD(ハイビジョン)化するなどサービスの強化に努め、「TBSニュースバード」とともに、着実に加入者数を伸ばしています。さらに、10月には「TBSチャンネル2」が新たに開局となり、TBSのCS放送は3チャンネル体制で、さらなる加入者の拡大を図っています。

ライセンスビジネスでは、東京スカイツリーに、在京民放5局による番組関連商品の協同店舗「Tree Village(ツリービレッジ)」をオープンしました。ドラマ「ATARU」で、主人公が持ち歩くデグーねずみのレプリカぬいぐるみマスコットは人気を呼んで、番組終了後も売れ続ける息の長いヒット商品になっています。また、11種類発売されている「SPEC」関連の書籍は、映画「劇場版 SPEC～天～」の公開も追い風になって累計91万部の売上を記録しています。

デジタルビジネスでは、TBSとして本格参入した、自社開発初のソーシャルゲーム「SPEC～カードコレクション」が好評で、新たな収益源になる可能性を示してくれ



ました。また、大学生協などの協力を得て、首都圏の15大学で展開してきたデジタルサイネージ(電子看板)ビジネスは、全国50以上の大学に導入されるなど順調に拡大しています。

不動産事業

REAL ESTATE BUSINESS

不動産事業の売上高は、77億8千1百万円で前年同期に比べ1.6%の増収となり、営業利益は36億4千3百万円で、前年同期に比べ9.0%の増益となりました。

開業5年目を迎えた「赤坂サカス」は、各種の興行や「Sacas広場」で開催される様々なイベントを通じて、文化・エンタテインメントの発信地としての人気を確立しています。赤坂Bizタワーの商業施設は、ようやく震災の影響から脱しはじめ、売上が回復基調にあるほか、住宅施設の赤坂 ザ レジデンスも、引き続き高い成約率を維持しています。

